

あたく組が関わるプロジェクト

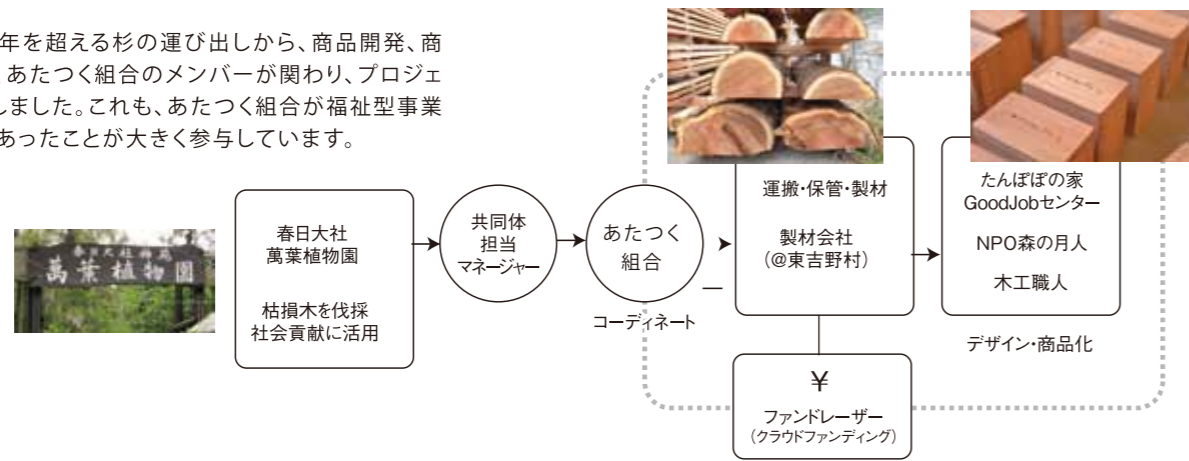
「地域が人を育て、人が地域を育てる。
それが魅力ある地域である。(あたく組)」

Project 1

「春日大社境内の杉活用プロジェクト」

奈良県には千年以上の歴史を誇る春日大社があります。境内は御神域ですので狩猟、伐採は禁じられています。ただ、枯損木の間伐については世界遺産でもある社を守る為、いたしかたなく行われてきました。この度、春日大社の社会福祉活動に役立てたいという趣旨のもと、あたく組がその間伐された杉の木を無償で譲り受けることになりました。

樹齢数十年を超える杉の運び出しから、商品開発、商品製作まで、あたく組のメンバーが関わり、プロジェクトが進行しました。これも、あたく組が福祉型事業協同組合であったことが大きく参与しています。



Project 2

「ならIT企業連携プロジェクト」

奈良県には大きなIT企業がありません。そのため行政主導の大きな案件については、結果として県外の業者が受注することになり、県内の産業に結びついていないばかりか、県内の資産が県外へ流出しています。そこで、あたく組を核にIT事業者が連携し、大型案件を受けられる体制を整えることを趣旨として始めました。福祉施設を核にデザイナー、ライター、システムエンジニア、入力スタッフ等のIT事業者がプラットフォームの構築やコンテンツの制作に対応しています。

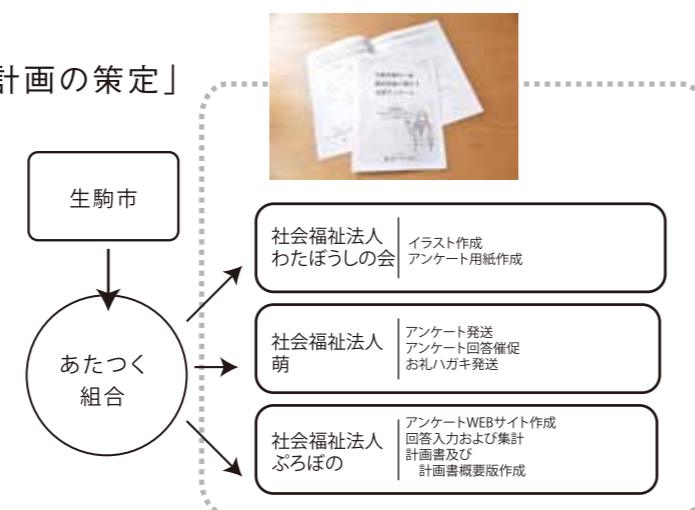


Project 3

「生駒市障がい者福祉計画の策定」

奈良県生駒市から第5期障がい者福祉計画の策定支援業務をご依頼いただきました。前期の計画では、計画書の印刷を優先調達で発注されていますが、今回は、市民アンケートの制作・発送、Webアンケートの実施、アンケート回答の集計・分析、サービス利用量の推計、計画素案の作成など総合的な業務を優先調達として発注を受け、複数の障がい者就労施設の「仕事」として取り組むことができました。

優先調達が単純作業で終わらずに、企画や提案型の受注ができる体制を築けたこともあたく組の強みであると考えています。



Project 4

「D@Cアワードプロジェクト」

あたく組はD@Cコンソーシアムが主催する『D@Cアワード2016』に応募し、大賞を受賞しました。平成29年は1年をかけてコンソーシアムによる伴走型のワークショップ、そして年度末に行われた『D@Cアワードシンポジウム』に参画しました。これからの地域とデザインをテーマに、福祉型の地域づくりについて外部の識者を交えて議論が交わされ、あたく組の根幹が鮮明になりました。あたく組の事業が整理され、方向性が明確になったプロジェクトです。



平成29年2月にあたく組一周年報告会と同日に行われた授賞式では、選考委員である株式会社ライゾマティクスの斎藤精一氏よりあたく組の取り組みについて講評いただきました。



伴走ワークショップを受け、平成30年2月に行われた『D@Cアワードシンポジウム』多数の識者から講演をいただき、有意義な時間となりました。



授賞式後、約半年にわたって行われた「伴走ワークショップ」最終回は奈良県内の施設を周り、宿泊で行われました。

Project 5

「平城京再生プロジェクトへの協力」



平成30年(2018年)3月に県営平城宮跡歴史公園がオープンしました。あたく組は指定管理団体である平城京再生プロジェクトから依頼を受け、その一端を担わせていただけることになりました。

あたく組が、地元奈良の団体であるということに加え、異業種が所属する事業協同組合であることも大きな理由です。現在、障害者雇用や物販、さらには組合員が持つ技術をベースとしたサービスなどを展開しています。



Project 6

「共同オンラインストアプロジェクト」

組合員が製作する商品販売の場として、オンラインストアを開設しました。組合には、小規模生産を続けている組合員が多く、なかなか販路拡大ができていません。様々な思いのこもった商品が、あまり目に触れられていないことをあたく組が取り組むべき課題と捉え、オンラインストアの開設に至りました。開設にあたってサイト制作や在庫管理の仕組みづくりにあたく組のITチーム(IT企業連携プロジェクト)が携わっています。

